

# 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成21年12月17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3771100520
法人名	社会福祉法人 瑞祥会
事業所名	グループホームあじさい
所在地	香川県東かがわ市引田922番地18 (電話)0879-33-7001

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成21年10月28日	評価決定日	平成21年12月17日

## 【情報提供票より】(21年9月15日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 4月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	6人
職員数	7人	常勤	1人, 非常勤 6人, 常勤換算 4.5人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋平屋造り
	1階建て1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	16,000円	その他の経費(月額)	2,000円+実費	
敷金	有( )円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200円	

### (4) 利用者の概要(9月15日現在)

利用者人数	6名	男性	0名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	1名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 81.1歳	最低	67歳	最高	88歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	森医院、大山歯科、県立白鳥病院、さめき市民病院
---------	-------------------------

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①利用者、職員のコミュニケーションが良い。利用者同士がお互いに声を掛け合い助け合う。家族、面会者にも好評である。
- ②毎日の生活のなかで、利用者の希望や意見を取り入れ、計画を作成している。皆で手作り弁当をもって外出している。
- ③職員が利用者の能力を把握するよう努めており、その人らしく過ごしていただけるように努めている。
- ④今年も昨年同様、東かがわ市の作品展に出品するため、作品づくりをしている。
- ⑤地域の方たちと交流を図るため、隣のテニスコート利用者の方に、氷を提供して交流している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

利用定員6名と小人数のホームであり、利用者と職員が支えあって生活している様子で、利用者の持てる力に添って、その人らしい生活が送れる支援を基本方針としている。隣接する系列法人の福祉施設との連携が密で運営面の協力を得るとともに、利用者の交流も図れている。管理者・職員は、日頃から利用者・家族が思いや意向を出し易い雰囲気づくりを心がけ、さらに、月2回介護相談員を受け入れている。定期的に、ボランティア講師による生け花教室で指導を受け好みに合った生け花を各居室に飾り、生活に潤いが生まれている。四季の花見や寺参り、地域の行事への参加等地域とのつながりを大切にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が安全で安心した生活が過ごせるよう、やさしさにあふれた、サービス提供を理念としている。	法人全体の理念である「安全とやさしさにあふれたサービスを地域とともに」に基づき、事業所の「いつまでも、その人らしく生活できるよう、お手伝いします」との基本方針を管理者、職員が共有して実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的買い物や、公園の散歩に出かけたり、テニスコートを利用される方に、氷の差し入れをしている。	日常的な公園の散歩時や、隣接する福祉施設の行事に参加して地域の人達と交流している。また、近くのテニスコートの利用者にも氷の差し入れをして交流を持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小・中学校の福祉体験学習を通じて、地域の人達との交流を図っている。また、実習生の受け入れも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議からの、意見をサービス向上に活かしている。	事業所のサービス状況、評価等について報告を行い、メンバーからの意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ケアサービスの取り組みなどを伝え、協力関係を築くよう努めている。	市担当者への報告事項等は系列法人の福祉施設で一括しており、日頃の交流はあまりないが、運営推進会議で意見交換を行い協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関、他の出入り口も解放されている。徘徊等については、職員が行動を共にしている。	日中、玄関の施錠はしておらず、帰宅願望が強く常習的に徘徊する利用者にはその都度職員が対応し、家族ともリスクについて話し合っている。職員は身体拘束について説明は受けているが具体的なマニュアルはない。	職員が身体拘束行為の理解を深め、無意識な禁止行為を防ぐ面からも、具体的なマニュアルを作成し、活用が望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	暴力行為等ある利用者への対応は、その都度職員間で、話し合って対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特別養護老人ホームの研修会に参加している。現在活用する機会はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解、納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月2回介護相談員が訪問している。意見箱を設置している。苦情受付担当者及び第三者委員を掲示している。意見、苦情には速やかに対応している。	月2回介護相談員の訪問を受け入れ、利用者が意見を出せる機会を設けている。管理者、職員は常に、利用者、家族の意見や要望に対応し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケース会や問題があれば、その都度話し合い、速く対応している。	管理者は、常に職員の意見を聞くよう働きかけ、話し合い、利用者の対応に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価を実施し、生きがいある職場づくりを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特別養護老人ホームの研修会に参加している。日々の介護のなかで、教育している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他施設との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家庭への訪問、事業所見学等を通じて、本人、ご家族の希望や、不安等を傾聴し、安心していただけるように、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及びご家族の要望を聞き、介護計画を作成し、援助している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とのコミュニケーションを密にしながら、本人の残存能力、生きがい等、個人に合った生活を築いていけるよう支援する。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連携を密にし、本人とのパイプ役となり、利用者、家族が共に楽しく生活して頂けるような、関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物、行事などで馴染みの関係が、途切れないよう支援に努めている。	地域への買い物や行事への参加、時には、旧知の訪問を受けたり、家族の支援で出かけ知人に合う機会を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に声をかけあい、助け合いながら、日々楽しく生活していただける様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人の特別養護老人ホーム、老人保健施設の利用が多いため、継続的な関わりをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族の思いや、希望を聞いたり、生活のなかでアンケートを実施し、利用者の意向を把握している。	本人の思いや希望の把握に努めると共に、家族からの情報を得ている。本人から聞けない場合は行動や表情から察するよう心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族とのコミュニケーションや、日常生活の中から、把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活のなかで、一人ひとりの心身の状況、能力等を総合的に把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族の要望を聞くと共に、職員会、ケース会を行い、個々に即した介護計画を作成し、対応している。	本人、家族の要望、職員の情報や意見に基づきアセスメントした課題に対し、計画作成担当者が作成し、本人、家族の了解を得て、職員間で共有し、半月毎のモニタリングにより、見直しを行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の処遇状況や、日々の様子を記録したケース記録を基に、変化があれば職員間で話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況により、特別養護老人ホームのチェア浴を借りたり、ホールを借り、他の利用者との交流を図るなど、対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、ボランティア、介護相談員、家族、知人との交流を図りながら、心身の安全で豊かな暮らしを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切に、かかりつけ医への受診や、往診など適切な医療を受けられるよう、支援している。	かかりつけ医との連携は大切にし、受診介助は家族の支援を受け、受診結果は共有している。異常時は、家族の了解を得て直接かかりつけ医の指示を受け対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特別養護老人ホームの看護師と、相談しながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院と連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族と話し合い、方針を確認している。	重度化に伴う事業所としての方針を利用初期に説明し、変化に伴ってその都度、本人、家族、関係者と話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	特別養護老人ホームと合同で訓練を実施している。また、利用者と避難の方法について、話し合っている。	防災避難訓練は、隣接する系列法人の福祉施設と合同で、年2回、消防署の指導を受けながら実施し、職員は、災害時の対応方法を身に付けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重した言葉かけや、対応をしている。	利用者の尊厳やプライバシーを損ねるような態度や言動は見られず、記録物の管理にも個人情報保護の認識がみられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望や思いを、自己決定などで表せるよう、生活のなかで、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	少人数の生活であるため、個々の希望に沿った生活を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定を大切に、散歩や、美容院へ行かれたり出張してくる美容師に髪型の希望を伝えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力を活かし、準備、後片付けなどをしている。	系列法人栄養士の献立による食材を、利用者と職員が共に調理し、時には菜園の野菜も採り入れ、食事を楽しみ、一緒に片付けもしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者へのアンケートや、日常生活の中で把握し献立に取り入れている。嫌いな物があれば、本人と話し合い、別のものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施するよう支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、失禁のある方には、昼夜を通じてトイレ誘導を行っている。	排泄パターンを個々に記録し自立支援に努めているが、各居室にトイレがあり、排便状況を聞き取りや下着の汚れなどで把握しているが、十分ではない。	排泄物を見られる事への羞恥心は、強いと思うが、排便の状態をつかみ難い利用者への観察方法の工夫を今後も続けて欲しい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄チェック表、本人に確認し把握に努めている。水分補給や乳製品を摂取してもらったり、体操などを取り入れ、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜日を除く毎日、ゆっくりと入浴されている。声かけにも、配慮している。	日曜日以外は、午後2時頃から日常的に全員が、入浴を楽しめるよう個々の状態に合わせて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠ができるよう、日中レク活動で体を動かしたり、短時間昼寝をするなど、ここに応じた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、利用者個々の薬の目的、用法の大切さを理解しており、医師の指示どおり、服用の支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴、残存能力を把握し、能力を生かした役割で、楽しみや、気分転換できるよう、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者、家族の希望で、墓参り、外食などの他、利用者の希望を聞きながら、お寺参り、花見など外出を支援している。	日頃は近くの公園へ出かける。また、利用者の希望を聞きながら、四季の花見、お寺参りを外食や弁当持参で楽しむ支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望により、買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により、電話をしたり、家族からの電話がかかることも多い。携帯電話を所持している方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた、行事の写真、ちぎり絵、生花など、雰囲気づくりを心がけている。	季節の花が生けられた玄関を入ると、裏山の木々を通してホーム全体に自然光が差し込み、居間兼食堂は清潔で利用者の手芸作品が適度に飾られ居心地よく過ごせる配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂では、ゲーム、パズル、テレビ、新聞、庭には、花や家庭菜園などで楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して過ごしていただけるよう、家庭で使用していた、生活用品を持ってきていただいている。居室には個性をいかした、工夫がされている。	備え付けの押入れとベッド以外は、利用者の好みを取り入れた生活用品や手作りの手芸品を飾り、畳敷きに小机・座椅子の居室または、フローリングの居室と利用者に合わせて居心地よく過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態を把握し、わからない方には、目印を付けている。		